

2025年9月28日（日）第二礼拝「イザヤを呼ばれた神様」イザヤ6章1～13節

神様がイザヤを呼ばれた理由は、イザヤの罪を審判し、赦しを与える神様を体験させるためでした。その罪の赦しは、「聖なるすえ、切り株(13節)」であるイエス・キリストによってです。このことを宣べ伝えるために、神様はイザヤを呼ばれました。

第一番目、イザヤの絶望です。イザヤの親族であるウジヤ王は、BC七百四十年に亡くなりました。彼はアッシリアの攻撃から国を守り、神様に仕えた良い王様でした。しかし、そのウジヤ王が急逝し、イザヤは絶望の中、国の行く末を心配して神殿に行き、神様に祈りました。その時、彼は天の王座に座られる神様と、その栄光を見たのです。そのお方は、全世界を治めるイエス・キリストです。王座の最も近くにいるセラフィムには、六つの翼があり、その二つで顔を覆い、他の二つで両足を覆い、残りの二つで飛びながら「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。…」と叫んでいました。そして、天の神様が聖なる御座ですべての事柄を決められることをイザヤは知り、絶望から希望へと変えられました。

第二番目、イザヤの悔い改めです。被造物の中で最も聖い存在であるセラフィムが、聖なる主の御前で自分の顔と両足を隠しているのを、イザヤは見ました。政治家として活動し、発言力のあったイザヤでしたが、聖なる主の御前で自らのくちびるの汚れを知り、「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるのけがれた民の間に住んでいる。しかも、万軍の主である王を、この目で見たのだから。」と言いました。これはイザヤの罪の告白です。聖なる主と出会う時、私たちの罪や汚れは明らかにされ、悔い改めに導かれます。国を救うのはウジヤ王でも、政治的手腕によるのでもなく、天の神様によることをイザヤは知りました。セラフィムが祭壇の上から取った燃えさかる炭を持ってきて、イザヤのくちびるに触れた時、彼の不義は取り去られ、罪は贖われました。この燃えさかる炭とは、聖霊の火、不義や罪を取り除くイエス様の血潮です。イエス様の血潮は、罪が赦されたという信仰を与えてくださいます。主の御前で私たちの罪は明らかにされ、いかに自分が愚かな者かを悟り、罪を告白する時、イエス様の血潮によって私たちの罪は赦されるのです。

第三番目、主の声です。「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」という主の声を、イザヤは聞きました。「われわれ」とは父、御子、聖霊の三位一体の神様です。父は私たちの罪を明らかにされる聖なるお方です。私たちが罪を告白する時、イエス様の十字架の血潮によって私たちの罪は赦され、聖霊様がそのことを証してください。神様は「さあ、来たれ。論じ合おう。あなたの罪が緋のように赤くても雪のように白くなる。主のもとに来なさい。主があなたの罪を赦し、その罪を思い出さない。」と語っておられます。この主の声を聞いて、イザヤは「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」と答えました。福音を伝えるためにイザヤが呼ばれたように、私たちもまた主に呼ばれています。「地の果てまで、日本、韓国、北朝鮮、中国、イラン、サウジアラビア…イスラエルにまで、わたしを遣わしてください。用いてください。」と私たちも主に応答しましょう。アーメン！